



OSAKA JAPAN

SUITA ESAKA ROTARY CLUB

CLUB WEEKLY BULLETIN

創立年月日/1990.2.27
事務所/〒564-0063 吹田市江坂町1丁目23番10号(大同生命江坂ビル12F)
TEL06(6821)0222 FAX06(6821)0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp

例会場/新大阪江坂 東急イン・3F 〒564-0051 吹田市豊津町9番6号 TEL06(6338)0109 例会日/毎週火曜日 12:30~13:30
会長:八橋志夫 幹事:木元良三 会報委員長:飛田昭男

◇ 2008年10月21日 第882回例会(第881号) ◇

◎ 本日の例会 ◎

今週の歌 「四つのテスト」

卓話 「ガバナー公式訪問」

国際ロータリー第2660地区

横山守雄 ガバナー

◎ 次回例会のお知らせ(10月28日) ◎

クラブフォーラム

「関西大学RAC設立について」

関西大学RAC設立準備委員会

西上博幸 委員長

前回(10月14日)例会記録

来客

林白玫さん(卓話者・米山奨学生)
宮川征四郎君(新大阪)

会長の時間

八橋 会長

土曜日から昨日まで3日連休の会社も多いと思いますが、この休みを皆様はどのように過ごされましたでしょうか。先週の10月9日 AM10:00~12:00の予定で地域安全・青少年育成吹田市民大会がメイシアター(大ホール)で開催されました。当クラブも協賛団体ということで、数名の会員が出席されたと思いますが、私は少々遅刻で会場入りいたしました。ちょうど吹田警察署長の挨拶時間で2階の後ろで拝聴していたのですが席に座ろうと思い、後ろ席は満席で中ほどに空席がありましたので、そこに座る予定で階段を降りをはじめました。そしたら係りの女性から声をかけられ、一番前の関係者の席に案内されてしまいました。その後隣の国会議員、府議員、市議員...多数の来賓紹介がありました。当然です

出席報告

山崎 委員長

【10月14日】

在籍会員 41名(内出席規定適用免除者 10名)
出席会員 36名(内出席規定適用免除者 6名)
ホームクラブ出席率 97.30%

9月16日のMUを含む出席率 97.14%

が私だけ紹介はありませんでした。紹介終了後、案内してくれた女性は恐縮して二度も謝りにきてくれましたが...遅刻、態度の大きい歩き方...反省です。

その夜に情報集会がありました。その席で田中(茂)広報委員長から四つのテストについての理解の仕方について、面白い話を聞きましたので、お聞き出来なかった人のために、ご披露させていただきます。

言動の指針(四つのテスト)

言行はこれに照らしてから

- ① 真実かどうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるかどうか

四つのテスト

事業の立案・企画・実行はこれに照らしてから、

- ① 嘘・偽りはないか。
- ② 関係者すべてに公明正大か。
- ③ 事業のより良い支援者になってもらえるか。
- ④ 関係者すべてに有益となるか。

詳細等ご説明を受けたい方は、田中(茂)広報委員長にご一報を。

幹事報告

木元 幹事

◎次回10月21日(火)は、横山ガバナー公式訪問日です。クラブの概況書ご持参下さい。記念写真撮影しますので、12:00に集合して下さい。

◎11月4日(火)は、東急インの都合により休会です。

ニコニコ箱

新井 会 員 新入歓迎会ありがとうございました。

成松 会 員 歓迎会ありがとうございました。
これからもよろしくお願い申し上げます。

大森 会 員 前回欠席してすみません。

本日分 18,000円

累 計 476,000円

親睦活動委員会

寺井 委員長

「クリスマス家族会」の予告ご案内

来る12月16日(火)、新大阪江坂東急インに於きまして家族会を開催する予定になっております。今年度は手作りの楽しい企画ということで「家族対抗のど自慢大会(カラオケ)」とすることで決定致しました。豪華賞品を多数用意致します。カラオケで高得点が出れば優勝です。仮装や変装をして歌をうたい、会場を盛り上げた人にはいろいろな賞を準備します。

家族を含めた皆様のご協力で楽しい家族会にしたいと思っております。よろしくお願い致します。

奉仕活動委員会

金馬 副委員長

(青少年担当)

クラブ青少年活動正副委員長会議報告

10月11日(土)、関西大学高槻キャンパスにて、秋のライラに先立ちまして行なわれました。事前に書かれた各クラブアンケートの報告があり、続きまして秋のライラ開講式に参加しました。

秋のライラ出席報告

10月11日～13日、関西大学高槻キャンパスにて、大阪なにわRCのホストにより開催されました。当クラブより八橋会長、木元幹事、西本委員、金馬が開講式に出席。西上委員は3日間の上級ライラに参加されました。

尚、初級ライラには130名。上級ライラには5名。ロータリアンの登録は423名でした。

奉仕活動委員会

渡邊(眞) 委員長

10月9日(木)、吹田市文化会館に於いて、地域安全・青少年育成吹田市民大会が開催されました。

奉仕活動委員会

速見 委員

(米山担当)

本日、米山奨学会特別寄付金を頂いた方は24名、合計360,000円でした。ありがとうございました。

「台湾女性の生活誌

—日本植民地時代の台湾女性の服装の変遷について—

米山奨学生 林 白 玫 さん

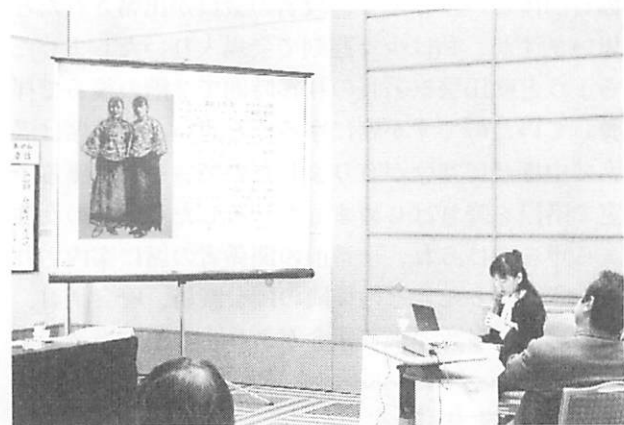
(大阪大学大学院文学研究科)



一、1895年～1920年 伝統の因襲

大陸から移入してきた台湾の漢民族は、当時の大陸の服装と風俗を台湾にもたらした。女性の服装は「衫」という上着に、下は「褲」を穿き、あらたまった場合には「褲」の上にもた「裙」を穿いたのであり、これが明朝の漢民族の女性の装飾で、清朝の時代になっても、女性は清族の服装、いわゆる「チーパオ」の着用はしなかった。1895年に台湾が日本の植民地となって以来、総督府が清国の象徴である女の「纏足」、男の「辮髪」を法令により禁止したが、服装に関しては後期の皇民化時期まで強制的に日本服に変えるようなことはしなかった。

二、1920年～1937年 長衫の流行



1921年から台湾の知識人により、外来文化と伝統文化の優れたところの融合を求め、「台湾特有文化」を作り出すための「台湾新文化運動」は、台湾人自らが求めた近代化の理想像であった。文化劇の地方巡回、映画上映、音楽会などが行われ、民衆の評判も上々であり、これらに参加する住民の数も非常に

多かったという。このような活動は、就学することのできなかつた民衆に新しい知識を与える好機となった。抑圧された植民統治から脱出する希望と、封建体制を打倒した民主新中国への憧れは、日常生活の服装の変化に反映されていった。そしてそれは、台湾の若い男女における中国の流行を追求する潮流として、表出された。台湾では、「長衫」とよばれたチーパオが流行しはじめた。

三、1937年～1945年 洋服への転換

1937年に日中戦争が始まり、台湾では、皇民化政策が推し進められており、台湾人の日常生活全般に大きな影響を及ぼすこととなる。総督府にとって、台湾人の服装の改善も一つの課題となった。台湾人は「日本の臣民」であるため、「敵国」中国から伝来する台湾服を捨てなければならぬと考えられ、各地では台湾服の着用を禁止する動きが起こった。一般の本島人にも和服の着用を勧めていることが新聞に取り上げられた。しかし、気候風土が和服に向かない亜熱帯の台湾で敢えて和服を奨励することは、良い成果を収めることはできなかつたであろうと思われる。台湾での日常生活を考えると、和服よりも洋服の方が適切であると思う人が多かった。統治者側の「脱中国化」政策を原因として、台湾服も長衫も着ることができなくなってしまう、経済的余裕のある女性は和服を作るが、一般の女性は和服の代わりに、非難されることもなく、体裁が台湾伝統の「上衣下裳」に共通する洋服（上着にスカート）、あるいは長衫と似ている洋服（ワンピース）を普段着としたのである。

職業奉仕月間、米山月間によせて

国際ロータリー第2660地区

横山守雄 ガバナー

私はいろいろなロータリー活動の中で、職業奉仕がロータリアンにとっては最も重要な分野であると考えております。ロータリアンは「他への思いやりの心」そして「他への助け合いの心」をロータリーで学び、自分の職業を通じて社会の人々のお役に立つ、そしてその崇高な奉仕の理念を世の中に広めて行くという責務を担っているからです。最近、RIやR財団が人道奉仕活動やプロジェクトに活動の重点を置いていることもあり、ロータリーでの職業奉仕の重要性が薄れがちです。一方、近年ロータリアンが関係する企業や組織でも不祥事が多発しておりますが、ロータリーの職業奉仕の理念やモットーが本当に理解されておれば、不祥事には至らなかつた

のではと残念に思われます。

私は本年度当地区の重点活動項目の第一点として「職業倫理の向上と、四つのテストの実践」を掲げさせていただきました。これは大変陳腐な活動項目かもしれませんが、ロータリアンが高い倫理基準を保ち、そして更なる向上へ日々努力することが、ロータリーの発展にとって最も大事なことと考えたからです。本年度のG月信には、「ロータリーの真髄—職業奉仕を語る」というテーマのもと、1年間に亘るシリーズで毎月号に職業奉仕の啓蒙に秀でた諸兄に執筆をお願いしております。是非ご一読下さいますようお願い申し上げます。

さて、10月は「米山月間」でもあります。米山奨学事業は日本独自のロータリー活動として始まり、半世紀以上の歴史を持つ大変重要な活動分野です。米山奨学金受給者の中には外国の政府機関、実業界や教育界で活躍されている方、また国際親善と友好に大いに貢献されている方が多数いらっしゃいます。米山奨学事業がこれまで果たしてきた国際的な役割は計り知れないものがありますし、これからもその重要性は益々増して行くものと思います。

一方米山奨学事業は、日本全体の会員数と拠出奨学金の減少、会員の高齢化による奨学生カウンセラーの問題、奨学生の選出方法、奨学生帰国後の対応問題など、ロータリアン、そして奨学生、双方で解決して行かなければならない様々な課題があることも事実です。有意義な本事業の更なる発展のために、日本のロータリー全体で米山奨学制度の改善を図って行く努力が必要であります。ロータリアンの皆様の本事業に対するよきご理解とご協力をお願い致します。

(Governor's Monthly Letter 10月号より)

(財)ロータリー米山記念奨学会ニュース

★ハイライトよねやま 104号★

2008年10月10日発行

1. 寄付金速報—10月は米山月間—

9月までの寄付金は、前年同期と比べて1.0%増、約350万円の増加となりました。普通寄付金が1.5%減、特別寄付金が4.4%増と、先月に続いて前年同期比がプラスのまま推移しています。

10月は米山月間です。10月から12月までの3カ月間は、1年間の特別寄付金の約半分をご送金いただいている重要な時期です。米山記念奨学事業に関わる皆様には、新ビデオ「すばらしい贈り物」(DVD)などをお使いになり、当会事業に対するロータリアンのご理解を深めていただきますよう、広報活

動へのご協力もよろしくお願い申し上げます。

2. 米山奨学生が得たもの、生かしたもの

—東京RCでフォーラム開催—

10月の「米山月間」は、米山記念奨学事業について理解を深めるためのさまざまなプログラムが各クラブで催されています。

当事業の前身である「米山基金」を始めた東京RCでは今年、黒川光博会長による「先頭に立って米山記念奨学事業を支援しよう」という方針のもと、今月1日、3人の米山学友をパネリストとするクラブ・フォーラムを開催。

“奨学生が得たもの生かしたもの”をテーマに各学友が語った後、会場との質疑応答などが約90分にわたって行われました。

終了後、参加会員からは、「奨学事業を再認識できて大変良かった」との声が寄せられました。

姫 軍さん（中国）：北京で弁護士として活躍（世話クラブ：東京臨海RC）

「米山奨学金の特色は、お金だけではない“心のつながり”であり、人を育てるプログラムであること。夢をもって働くことの大切さは、ロータリーから学んだ。だから私も、働くみんなが夢を実現できる事務所をつくりたいと、北京で開業した。これまで成し遂げてきたことは、“姫だからできた”のではなく、東京臨海RCの皆さんがここまで私を育ててくれた」

鄭 企娟さん（韓国）：WFWP女子留学生日本語弁論大会で準優勝（世話クラブ：浦和東RC）

「奨学生の時に病に倒れ、再生不良性貧血と診断された。一時は余命宣告も受けたが、生きる意味を求めて、日本での勉学を続けることにした。この間、ロータリアンをはじめ、多くの方々に支えていただいた。これからは人のために生きたいと思う。大学の教育者になることを目指して博士課程で勉強中だが、いつかは発展途上国の子どもたちの教育に携わりたい」

アブディン、モハメド・オマルさん（スーダン）：母国の視覚障害者を支援（世話クラブ：東京国立白うめRC）

「世話クラブでは、仕事で忙しいロータリアンが、時間とお金と労力を使って奉仕を実践する姿に感動した。私も負けられないと奮起して、今年3月、スーダンの視覚障害者を支援するNPO法

人を立ち上げた。学生である私に直接の恩返しはできないが、教育環境が整っていない母国の視覚障害者のために何かをすることが、皆さんの期待でもあり、私の責務だと思っている」

なお、このフォーラムに先立つ東京RCの例会では、姫さんが「米山奨学会と私の人生」と題し、卓話を行いました。北京大学在学中に民主化運動に関わったことで、進学や就職の一切の道を閉ざされ、失意の底にあった姫さんは、ようやくパスポートの取得が認められると、日本に留学。夢を失っていた自分に、再び夢と希望を見いだせるようにしてくれたのは、米山記念奨学金と世話クラブのロータリアンからのサポートであったといいます。「今、ひとかどの人間となってここにいる自分は、皆さんの“成果”です」と力強く結び、ロータリアンの感動を呼びました。

3. 陶芸家の米山学友、張 義明さんが大阪で個展開催

台湾出身の米山学友で、和歌山県龍神村にアトリエを構える陶芸家、張 義明さん（1997-99年／和歌山城南RC）が今秋、大阪で個展を開きます。陶芸への情熱で交通事故の後遺症を克服し、創作活動に真摯に取り組む張さんは、母国・台湾の国立大学美術館や県立博物館で個展を開くなど、新進気鋭の陶芸家として活躍をしています。季節はまさに“芸術の秋”。ご興味のある方は、ぜひお出かけください。

作陶10周年記念

張 義明 造形陶芸展

森羅万象 一響きあう命—

会期：10月14日（火）～10月26日（日）

11:00～19:00（最終日17:00）

場所：「海岸通ギャラリーCASO」

（地下鉄中央線「大阪港」駅から徒歩5分）

<張 義明さんからのメッセージ>

「今回の展覧会は、陶芸を始めて10年になるのを機に、今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを込め、陶芸を通してご恩返しのつもりで、子供からご高齢の方、目が不自由な方などにも陶芸に親しんでいただけるよう企画しました。実際に手で触れていただける作品も展示し、作品解説や陶芸体験などのワークショップも開きます。私たちと原点を同じくする大地から生まれた生命である陶を通して、静寂の中にある生命の息づかいを感じてください」